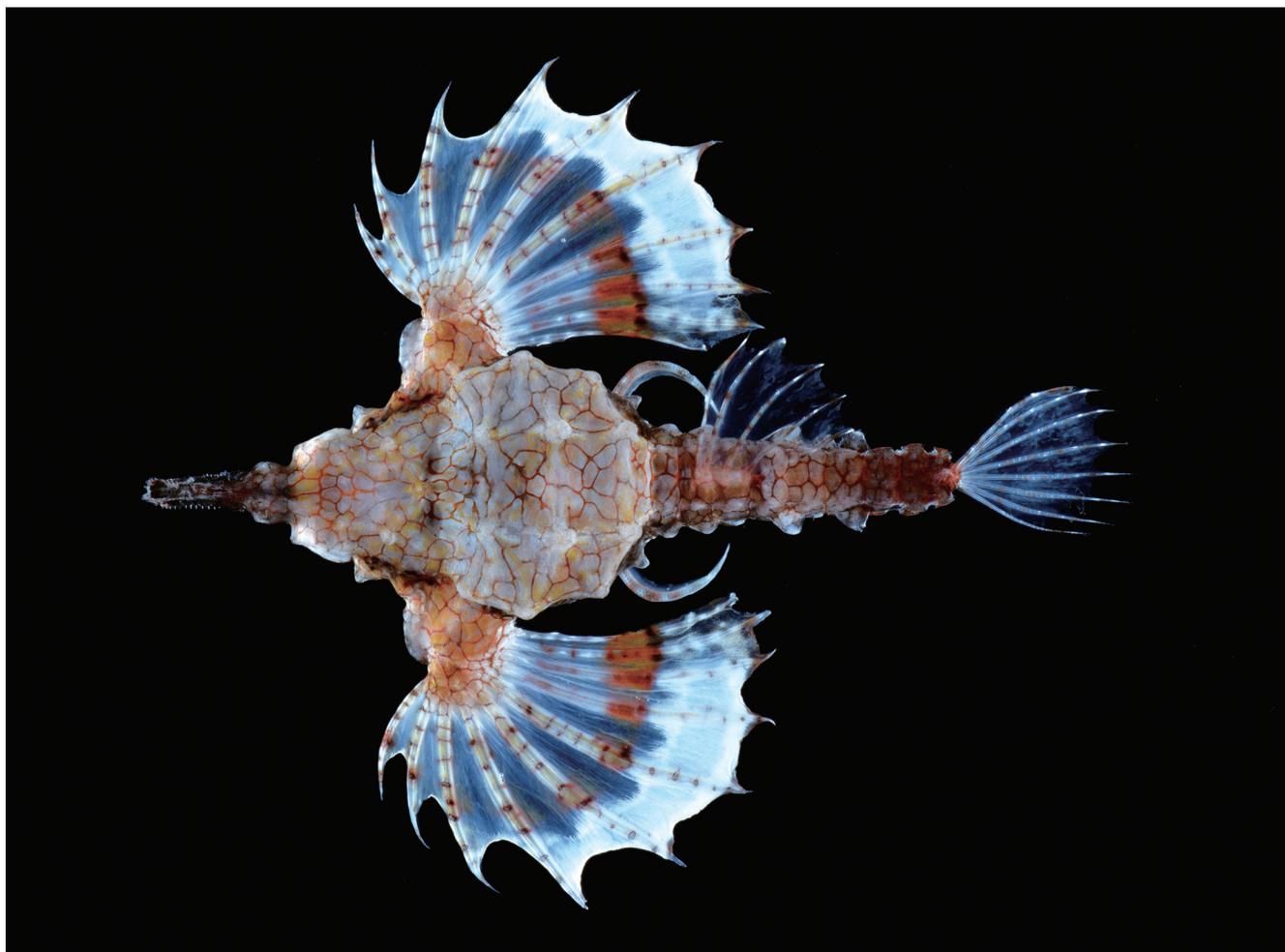


自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 26, No. 4 神奈川県立生命の星・地球博物館 Dec. 2020



ウミテング(ウミテング科)

Eurypegasus draconis (Linnaeus, 1766)

標本: KPM-NI 58747*

体長: 61.5 mm

産地: 三浦半島, 諸磯

瀬能 宏 (学芸員)

※当館電子台帳上の資料番号はゼロを付加した7桁の数字で表記されます

この写真はウミテング科ウミテング属のウミテングを背面から撮影したものです。甲殻類のようでもあり、昆虫のようでもある生物の正体はれっきとした魚なのです。本種の標準和名は海に住む天狗を意味すると思われ、神奈川県三崎での地方名に由来します。この奇妙な魚は1710年にオランダで出版されたルイシ (F.Ruysch) の博物書でアンボンの飛ぶ小さな魚として紹介され、その図版には八放サンゴの枝に留められた本種の乾燥標本が描かれていました。本種を含むこの仲間の

英名はseamoths、つまり海の蛾^がで、この本の図版からの連想かも知れませんが、実際は海底を這うように移動しながら小動物を捕食する底生の魚です。本種の属の学名の語幹に使われている *pegasus* の原義はギリシャ神話に登場する翼を持つ天馬ペガサスです。また、種小名の *draco* はラテン語で竜のことです。本種にまつわる名前には架空の生物が多く登場することから、歴史的にこの魚が不思議で謎に満ちた魚として人々に認識されてきたことを窺い^{うかが}知ることができます。